

探究学習で熊本大学訪問 その2 小川学長からのメッセージ

9月20日に紹介した熊本大学訪問の第2弾です。訪問時には、小川学長、宇佐川副学長、富澤副学長に講演していただきました。今回、校長として嬉しかったことは、「生徒たちの知的好奇心の高さ」を実感できたことです。学長や副学長のお話が面白かったこともありますが、生徒たちは学長たちの話に食いつき、「学ぶ楽しさ」に触れた感想が多数ありました。数名の職員が、他用のついでに「熊大訪問良かったですね。生徒が楽しそうでした。」と嬉しそうに感想を述べてくれました。知的好奇心を満たされるときには、生徒も職員も楽しそうな顔をするのだと再認識したところです。これからも、生徒たちが「学ぶ楽しさ」に触れられるよう、職員一同頑張ります。

今回は、そんな、学びの楽しさを実感させていただいた小川学長の「熊大附中生へのメッセージ」の内容を簡単にご紹介します。

小川久雄学長は、熊本大学循環器内科教授、国立循環器病研究センター一理事長等を歴任後、令和3年4月に熊本大学学長に就任された、循環器内科医療の第一人者です。

学長のお話は、具体的な心臓疾患治療例や、循環器病研究センター移転時の工夫、これからの熊本大学が目指す方向等、多岐にわたる内容でした。



たくさんのお話の中で、私の印象に残ったのが、「クローズドイノベーションではダメ。オープンイノベーションがこれからの時代をつくる。」という話です。具体的にいうと、「特定分野の人だけで知恵を出し合う（クローズド）のではなく、様々な分野の人が知恵を出し合う（オープン）ことで新しいよりよいものが生み出されていく。」ということです。

さらに、私の心に響いたのはこの後です。「立場の異なる人々と知恵を出し合うために必要なのは、コミュニケーションで、その基になるのが挨拶。附中生の皆さんが、今後大切にすべきは、コミュニケーションと挨拶です。」イノベーションセンターを立ち上げられた学長の言葉だからこそ納得させられる、附中生へのメッセージでした。講演終了後に、お礼に伺うと、「挨拶をしない大学生が多いが、附中生はよく挨拶をする。いいですね。」と、嬉しいお言葉をいただきました。

とはいえ、附中生の挨拶はまだまだ良くなると思っています。タイミングを計ったように、今週から玄関前や階段踊り場に、生活向上課が作った「附中の挨拶像」が置いてあります。

「目を見て、大きく・明るい声で」こんな理想の挨拶が広がるといいですね。

大きく・明るい声で挨拶できなくても、相手意識をもった挨拶を続けましょう。行動は、続けることで習慣になります。いい習慣は、必ず力につながります。

正面玄関に置かれた呼びかけ

